

# ゆみこの 議員活動 報告書



2020.7.1 18



コロナ禍をどう乗り切る？

- ・支援はどこまで
- ・高齢者施設
- ・子どもたち
- ・またもマスク？

弱い立場の人  
あなたも議員に！



◀ ホームページ <https://yumiko3.net/>

Eメール [yumiko3@mac.com](mailto:yumiko3@mac.com) ▶



〒061 - 0512 月形町市南 4

☎ fax 0126-53-2611 携帯 090-7646-3837

発行日 2020年7月1日 発行人 宮下裕美子

## みなさん、こんにちは。



植物がもりもり生育する季節になりました。地物野菜が豊富になる楽しい季節の到来♪ 体にも心にも大地からの栄養をたっぷり補充したいですね。

さて、前回の活動報告書 17 が思いのほか好評で喜んでいきます。いつも原稿を書くときは読む人になったつもりで、どう表現すれば伝えたい内容と気持ちが素直に伝わるのか、1つ1つの言葉を吟味して文章を紡いでいます。自分の内面とも向き合う作業で孤独ですが、活動報告書を読んだ方

ら感想が届いたときには、共感だけでなく批判であっても嬉しい電気が走ります。ただただ繋がるだけで喜びを感じるのは、人間だから？ コロナ禍で直接会えないことが感性を研ぎ澄ましたのかもしれません。

引き続き、感想や意見、サポーターやボランティアをお待ちしています。



## コロナ禍をどう乗り切る？（定例会報告）



世界中を巻き込んだコロナ禍によって、私たちは経験したことのない数ヶ月を過ごしました。私はココが大きな転換点で、ココを起点に新しい世界が始まったと感じています。

コロナ禍で求められる3密を避ける新しい生活様式は、「疎（そ、まばら）」を目指すということ。

つまりは私たちの生活の場である過疎地の月形町には価値がある！ということでもあります。ちょっと不便な暮らしを当たり前、その不便さを知恵と工夫によって豊かで楽しい生活空間にしてきたことが、これから生きてくると考えます。だから今、この転換点で苦しい今を踏ん張って、みんなで乗り切りましょう。



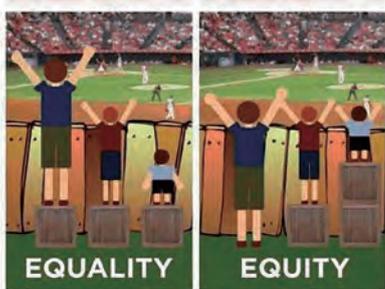
6月2～3日に月形町議会は定例会を開き、主に新型コロナウイルスの対策や支援策について議論しました。詳細は私のブログに掲載しています。また、秋頃発行の「議会だより」にも掲載されますのでご覧ください。

この活動報告書では、定例会の議論の中から特に重要と感じた部分を抜粋しました。

## 1. 民間支援は何を基準にどこまで？

町は地域経済や町民の暮らしを支えるために様々な支援をしています。これまでにない規模の緊急事態だから当然なのですが・・・原資は税金！広範囲の多くの人が支援を求める緊急事態だからこそ、税金を使う町の支援には【公平性】と【透明性】が強く求められます。それは使える税金には限りがあるから。【公平性】を保つためには、どんな意図で支援をするのか目的や方針をハッキリ示すことが重要ですし、納得や検証のためには【透明性】が必要です。これまで町は緊急対応中心で曖昧なところもあったので、今後の改善を求めました。

これに対して町長は「公的支援には【平等性】の観点（＝一律になること）がある。これからは個別の状況やニーズに合わせてきめ細かくやっていきたい」と答弁しました。



私は【公平性】、町長は【平等性】。似ているけれどちょっと違う概念で、イラストが上手く表しています。「そうか！町長は平等性を意識していたから、このあと

に出てくる施策がみんな【一律】を意識したものだったのか!!」と腑に落ちました。

## 2. 高齢者施設の感染症対策を重点的に

新型コロナウイルスは特に高齢者が感染すると重篤化すると言われています。また入所施設では3密になりやすく各地でクラスターも発生しました。そのため、町内の高齢者施設では大きな負担が強いられています。でも（当時）公的な支援はありません。月形町は高齢化率（人口に占める65歳以上の割合）が42%を越えていて、たくさん的高齢者のみなさんが地域や施設で暮らしています。お友達や家族が暮らす高齢者施設でクラスターが発生していないこと、デイサービスを受け入れていることで町内が回り、町民の安心にも繋がっています。このままの状態が続けられるよう、特に高齢者施設に対して感染症対策の支援をしていく必要性を訴えました。

これに対して町長は「コロナ禍によって通常よ

り手間と経費がかかっている

ので、町内の高齢者と障がい者の入所施設全5箇所に、用途を制限しない支援金を一律20万円支給する。また、これとは別にマスクや防護服等の衛生資材も配布する」と答弁しました。



町が独自支援を決めたことは良かったのですが、入所施設というくくりを持ち出したことに？私は、新型コロナウイルスの特性と月形町の状況から、高齢者施設の重要性と重点支援の必要性を訴えましたが【一律】【平等】の壁に阻まれたようです。

## 3. 子どもたちの学習環境を整えるために

成長著しい子どもたちが3ヶ月もの休校！コロナ禍で一番影響を受けたのは子どもたちだったと思っています。家庭・学校・教育委員会の連携で対応されたものの、将来を見据えたらやはりICT環境整備が必要と痛切に感じました。ちょうど今、国が進めているGIGAスクール構想にどう乗って行くのか、オンライン授業の可能性など、教育長とやり取りで解ったことは・・・

- 国のGIGAスクール構想の補助金で、今年6月に小中学校の大容量回線整備の予算を確保し、8月にはソフト選定する。9月には児童生徒1人1台のタブレット購入予算を確保するが、入手困難で配置は年度内に間に合うかどうか。学校側の機材（撮影用可動式カメラ、マイク）も入手困難、要対応。
- 9割以上の家庭に無制限のネット回線が通じている。回線のない家庭への対応や通信費の問題など要検討。
- 子どもたちにタブレットを配布した後の、使い方等のサポートも必要、要検討。
- 学童保育所に通信環境整備を検討したい。

教育長が答弁の中で「学習の効果は対面授業に勝るものはない」と言っていました。私も最近のZoom会議などの体験からオンライン学習の長所と短所も見えてきたので、理解できる部分もあります。ただ、現状と将来を考えれば両刀遣いになるでしょう。様々な学習方法の良いところ取りをするためにも、環境を整えることが大人の役割ですね。

#### 4. アベノマスクの轍を踏む？

アベノマスクの全国配布完了とともに回収箱に大量寄付される今、なぜこの発想が出てきたのか…

6月定例会に「コロナ対策：全町民に1人30枚のマスクを7月頃に郵送配布する（子どもと施設は上乘せ）。第3波4波への備えと家計支援のため。事業費775万円」が上程されました。5月29日の全員協議会で説明を受けて以降、全員協議会や一般質問、議案審議の中で議員から様々な意見や提案があり、最終的に町が内容を見直すことで折

り合いました。

説明を受けてから議決までの5日間にわたって熱い議論が交わ

されています。この詳細を2020年5月30日と6月4日のブログに書きました。QRコードから読むことができます。

今にして思えば、町長は【平等性】を大事にしていたのでしょうか。【公平性】を重視する私との違いが明らかになりました。



ブログ 5月30日、6月4日

### 弱い立場の人

上坂町長の答弁には「弱い立場の人」という言葉が何度も入ります。「弱い立場の人の視点に立って」「弱い立場の人たちの思いや願いを受け止め」と。その度に私は頭の中で「弱い立場の人って、誰のことを指しているの？」と思うのです。

一般に「弱い立場の人」を「社会的弱者=障害者・高齢者・女性・子供や、低所得層・不熟練労働者・零細な農漁民など、社会の中で弱い立場にある人（大辞林第三版）」と捉えます。町長も（前後の文脈から察するに）同様の意味で使っているのでしょう。その姿勢が強く表れたのが令和2年度の施策であり、新型コロナ対策でした。補助や支援先は常に「高齢者・障害者・子育て世帯・住民税非課税世帯」だったからです。

でも、私はいつも思うのです。

- 今、支援を必要とする人が「弱い立場の人」じゃないの？
- 基準が同じだと、こぼれた人はずっと救われないよね？
- 支援するって、お金や物を配ることだけなの？

こんなことを言うと「冷たい議員」だと言われるかもしれませんが… 令和2年度から保育料全員無料（0歳～就学前）、医療費無料（所得制限なし、通院・入院とも0歳～高3）、通院交通費1回1000円支給（小児科以外も、0歳～中3）、高校生の資格取得費1/2補助（町外へ通う高校生にも拡大）…など、子育て世帯への支援を大きく拡充しました。コロナ対策でも児童手当（0歳～中3）1万円上乘せや、商品券（地域振興券）を（0

～18歳）に3,000円上乘せ、別枠のマスク支給も計画されました。コロナ禍で長期休校になって思いがけない支出が増えていることは理解しますが、子ども向けの子育て支援策が昨年よりも相当充実しているのも事実です。

また、高齢者のみなさんとお話すると「時間があるから、マスクをたくさん手作りしたよ」「ずっと家に居るから、かえってお金は使わないわ」「年金は変わらないから大丈夫だ」などと、たくましく生きる力に元気をもらうほどです。

このように「弱い立場の人」のイメージと実態は少し違っているように感じます。もちろん、全員が同じように大丈夫とは限りません。「弱い立場の人」と一括りにされた中にも外にも、厳しくて辛い大変な思いをされている方がいることは想像できます。コロナ禍が広い範囲に想像を超える影響を与えているからこそ、これまでの概念で安直に判断するのではなく、感度の良いアンテナと繊細な心配りをもって現状を把握し、スピード感のある決断が必要だと考えています。

町民のみなさん、困ったことや不安があったら遠慮なく町職員や議員に声をかけてください。私たちは「町民が安心して暮らせる」ように環境を整えるのが仕事です。一人の声が多くの人への安心に繋がることもあります。どうぞ、声を聴かせてください。



## あなたも議員に！（受賞報告）



活動報告書 16 でお知らせした受賞の詳細報告です。

受賞したのは第 14 回マニフェスト大賞・優秀コミュニケーション戦略賞で『軽トラ活用ワンオペ選挙運動と費用公開で、町村議員立候補のハードルを下げる！』です。全国の議会・議員・首長・市民などから 6 部門に計 2,619 件の政策提言や実践の応募があり、各部門 5 計 30 の優秀賞の 1 つに選ばれました。また同時開催のプレゼン研修大会でも特別賞をいただきました。いずれも審査員から「興味深い」「何とかしたい気持ちが伝わった」「全国に広がって欲しい取り組み」と好評価を受けました。



Manifesto Awards

みなさんもお存じのように、小さな町村の議員のなり手不足は深刻です。月形町議選も 5 年前と 2 度の補欠選挙は無投票。私は「立候補のしにくさ」が要因だと感じています。

小さな町では議員への感心はあっても、強いしからみから立候補を避ける人は多いです。また、選挙は「地盤（後援会や地域などの組織）」「看板（知名度）」「カバン（お金）」が必要だと思われていて、諦める人もいます。地元の名士や役職を持った人なら問題なく立候補できても、私のような「女性」「若者」「よそ者」には高いハードルなのです。実際、多くの町村議会は中高年の男性議員が占めていますから。

「議会は町民の縮図」で「議員は町民の代弁者」のはず。町内には男性も女性も、高齢者も若者も、地元出身者も移住者もお嫁さんも住んでいるのだから、志を持った多様な人が気負わずに立候補できる「新しい選挙の形」があっていい！と、ずっと追い求めてきました。

そこで今回の取り組みです。町民のみなさんにはお馴染みの「軽トラ選挙」もその 1 つ。お願いや挨拶だけの選



挙を変えたくて、13 年前の初選挙から軽トラの荷台で街頭演説中心の選挙運動をしています。軽トラは小回りがきくし、燃費も良くて大助かり。

そして昨年 4 月、1 人で運転して 1 人で街頭演説する「ワンオペ選挙運動」に挑戦。たった 1 人で選挙運動する私を、たくさんの方が心配しながら見守ってくれていたのを荷台で演説しながら感じていました。「組織を持たなくても志と覚悟があれば何とかなる」と思えたのは、町民のみなさんのおかげです。

そして「選挙費用の公開」。選挙にはお金がかかる？に答えるために、これまでの選挙費用の全てをホームページで公開しています。立候補を考えている人には目安に（※）、立候補した人には提出書類の参考として好評です。

もっとも、私 1 人で全てを完結できたわけではありません。見えないところで手間のかかることを手伝ってくれた友人や家族の存在も大きいです。いつも支えてくれる人がいて、見守ってくれる人がいて、私は活かされているのだと改めて強く実感できました。

これを読んで議員立候補を思い立った方、お声かけくださいね。応援します。

※ 先の国会で公職選挙法が改正され、今年 12 月 12 日投開票の町村議会議員選挙から、立候補に供託金 15 万円が必要になります（没収点：昨年 4 月選挙で計算すると 25 票）。一方で選挙カー・ビラ・ポスターが公費で負担されます。必要な選挙費用が大きく変わるのでご注意ください。



選挙費用のページです

授賞式は昨年 11 月に六本木ヒルズ 49 階。都会の高層ビルからの景色は別格でしたし、演出された授賞式はテレビで見る映画祭のよう。それ以上に、全国各地から集まった意欲的な受賞者や関係者のみなさんとの新たな繋がりと、それぞれの独創的で魅力的な取り組みに魅了されてきました。

やるならトコトン、ちょっと背伸びする挑戦が新しい世界を切り拓くことを実感できたマニフェスト大賞でした。（おしまい）